

2005年2月8日

2005年3月期第3四半期財務・業績の概況

東レ株式会社
代表取締役社長 榊原定征

目次

- ・“プロジェクト NT- ” (P3-4)
- ・2005年3月期第3四半期連結業績の概要 (P5)
- ・事業セグメント別連結業績の概要 (P6-12)
- ・連結営業利益増加要因分析 (P13)
- ・2005年3月期連結業績見通しの概要 (P14)
- ・事業セグメント別業績見通し (P15-16)
- ・連結営業利益見通しの増加要因分析 (P17)
- ・原料価格の見通し (P18)
- ・“プロジェクト NT- ” 達成に向けて (P19)

- < 参考資料 > (P20-31)

“プロジェクト NT- ”の主要課題

経営課題	プロジェクト
意識改革・ 企業体質強化 (“守り”の経営課題)	(1) 活性化
	(2) トータルコスト競争力(～05/3) 自助努力改善(05/4～)
	(3) 財務体質強化
	(4) 営業改革
事業構造改革 による事業拡大・収益拡大 (“攻め”の経営課題)	(5) 品種別利益管理強化
	(6) 先端材料事業拡大
	(7) ナンバーOne事業拡大
	(8) 海外事業の戦略的拡大

守りの経営を維持しながら攻めの経営を推進

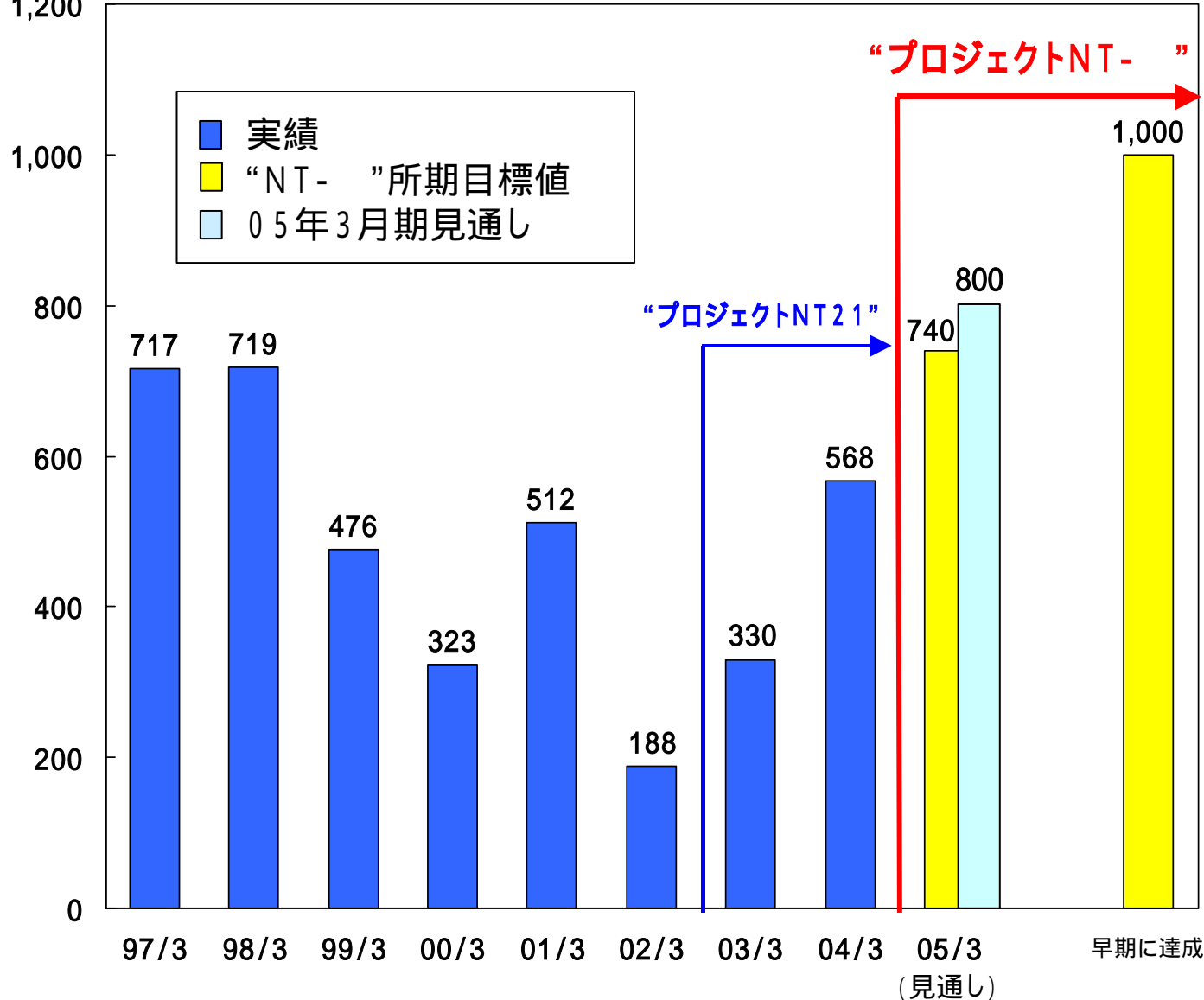
連結営業利益1,000億円の早期達成

グローバルな高収益企業グループへの飛躍

“プロジェクト NT- ”の数値目標

(億円)
1,200

連結営業利益の推移



営業利益1000億円
達成時の主要財務
指標イメージ

売上高営業利益率
約8%

ROA: 約7%

ROE: 約10%

D/Eレシオ: 1.0以下

2005年3月期第3四半期連結業績の概要



(第3四半期(10月～12月))

単位:億円

蝶理・水道機工の影響を除いた場合

	04年3月期 第3四半期	05年3月期 第3四半期	増減	05年3月期 第3四半期	増減
売上高	2,570	3,362	+792 (+30.8%)	2,768	+198 (+7.7%)
売上総利益	559	643	+84 (+15.0%)	586	+27 (+4.8%)
(売上高総利益率)	21.8%	19.1%	-2.6 ポイント	21.2%	-0.6 ポイント
販売費及び 一般管理費	445	497	+52 (+11.7%)	448	+3 (+0.8%)
(売上高販管費比率)	17.3%	14.8%	-2.5 ポイント	16.2%	-1.1 ポイント
営業利益	114	146	+32 (+27.8%)	138	+23 (+20.5%)
(売上高営業利益率)	4.5%	4.4%	-0.1 ポイント	5.0%	+0.5 ポイント
営業外収支	7	10	-3 (-)		
経常利益	107	136	+29 (+27.1%)		
特別損益	-	19			
四半期純利益	-	70			

	04年9月末	04年12月末	増減	04年3月末 <ご参考>
総資産	13,953	14,059	+106 (+0.8%)	12,953
株主資本	4,336	4,424	+88 (+2.0%)	4,142
有利子負債	5,007	4,903	-105 (-2.1%)	4,945
D / E レシオ	1.15	1.11	-0.05	1.19

(注) 3月期決算会社は10～12月の業績, 12月期決算会社は7～9月の業績を連結

事業セグメント別連結業績の概要

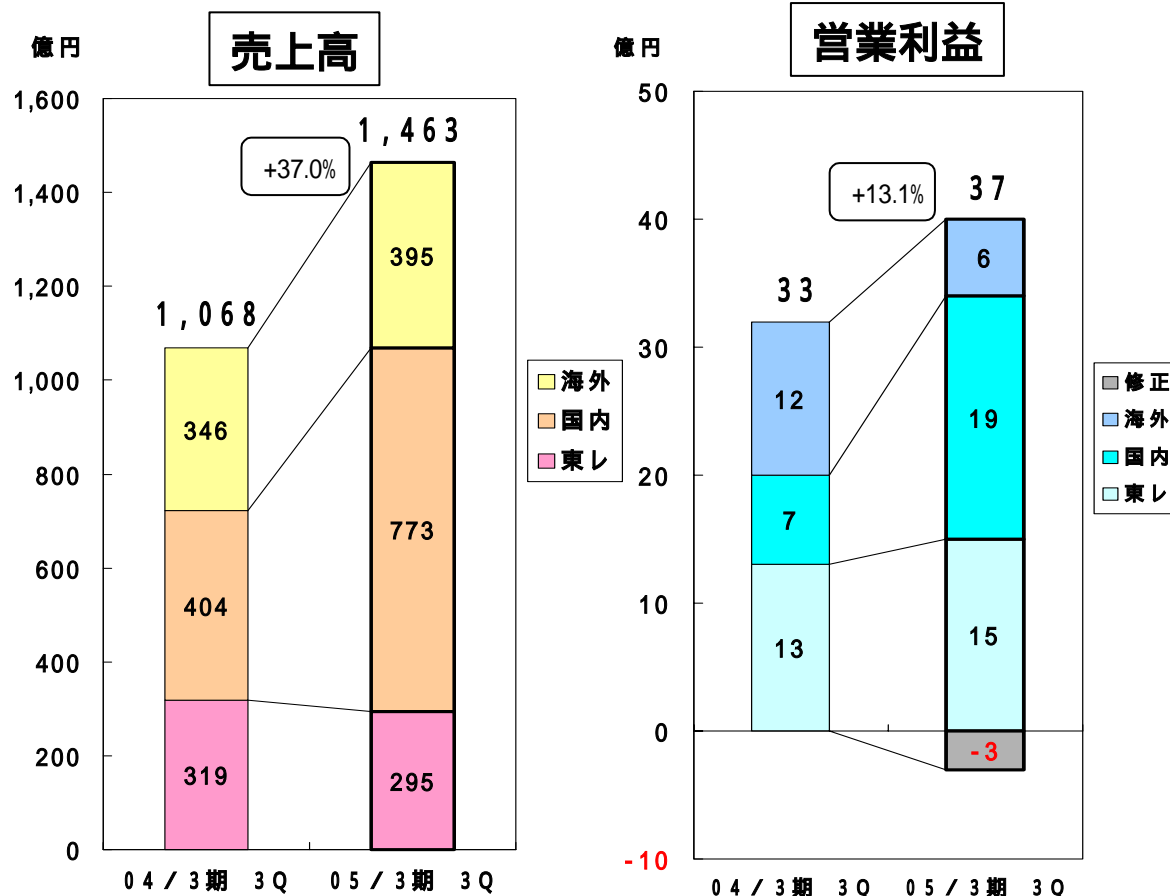
億円

	売上高			営業利益			特記事項
	04年3月期 第3四半期	05年3月期 第3四半期	増減	04年3月期 第3四半期	05年3月期 第3四半期	増減	
繊維	1,068	1,463	+395 (+37.0%)	33	37	+4 (+13.1%)	東レ: 減収増益 国内: 増収増益 海外: 増収減益
プラスチック・ケミカル	641	838	+197 (+30.7%)	24	38	+13 (+55.7%)	東レ: 減収減益 国内: 増収増益 海外: 増収増益
情報・通信機材	414	551	+137 (+33.0%)	44	62	+18 (+40.2%)	東レ: 増収増益 国内: 増収増益 海外: 増収利益横這い
住宅・エンジニアリング	194	242	+49 (+25.0%)	5	10	-5 (-)	東レ: 減収増益 国内: 増収減益 海外: 増収利益横這い
医薬・医療	113	99	-14 (-12.3%)	7	0	-7 (-95.7%)	東レ: 減収減益 国内: 減収減益 海外: 減収利益横這い
新事業その他	139	168	+29 (+20.8%)	11	18	+7 (+60.1%)	東レ: 増収増益 国内: 増収増益 海外: 増収増益
(内、炭素繊維複合材料)	90	112	+23 (+25.4%)	10	13	+3 (+30.1%)	
計	2,570	3,362	+792 (+30.8%)	114	145	+31 (+27.1%)	
消去又は全社				0	1	+1	
連結	2,570	3,362	+792 (+30.8%)	114	146	+32 (+27.8%)	

(注) 東レ・ファインケミカルのIT関連ケミカルを当期第1四半期よりプラスチック・ケミカルセグメントから情報・通信機材セグメントに組み替えている。

そのため04年3月期第3四半期についても同組み替え分を修正している。

事業セグメント別業績(繊維)



特記事項

東レ

産業用途が堅調に推移すると共に、品種別利益管理の徹底等により、実質的に増収増益なるも、蝶理の連結子会社化による内部消去が増加し、減収。

国内子会社

蝶理連結子会社化の影響及び商事子会社の拡販により増収増益。

海外子会社

海外全体で増収なるも、欧州子会社の不振等により減益。

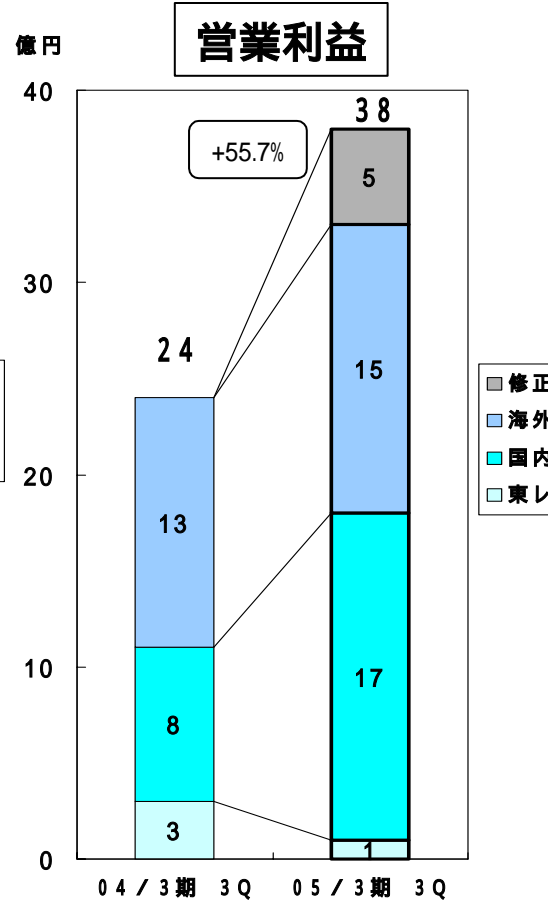
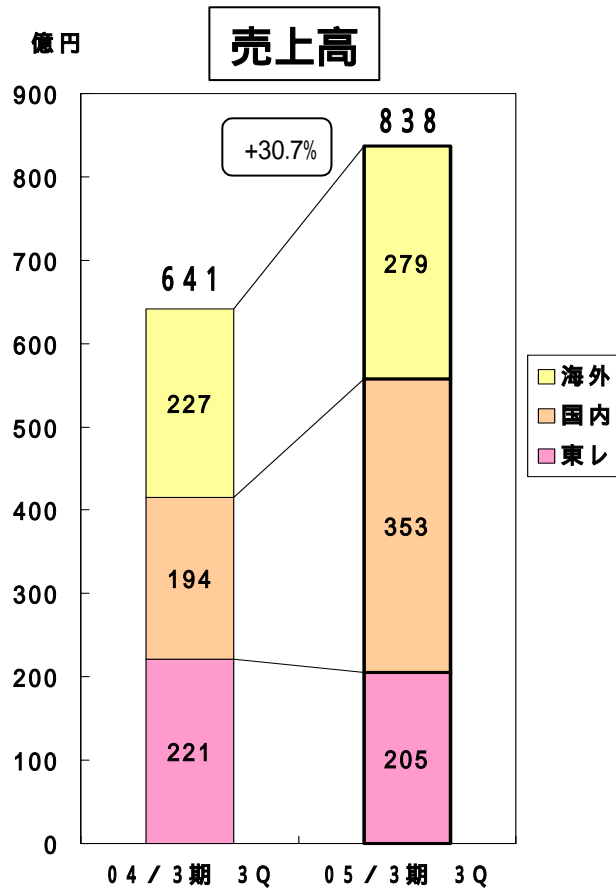
< 主要関係会社 >

国内: 東レインターナショナル、一村産業、蝶理 他

アジア: PENFABRIC(マレーシア)、LUCKYTEX(タイ)、ITS(インドネシア)、TFNL(中国) 他

欧米: ALCANTARA(イタリア) 他

事業セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)



特記事項

東レ

樹脂は自動車・電機用途向け、フィルムは工業材料用途向けが堅調なるも、原料価格高騰により減益。ケミカルは、低採算であったカプロラクタムの外販輸出を中止したことにより減収。

国内子会社

蝶理の連結子会社化の影響に加え、フィルム加工子会社の販売好調を主因に増収増益。

海外子会社

各社原料価格高騰の影響を受けるも、価格転嫁や高採算品種へのシフトを進め、増収増益。

< 主要関係会社 >

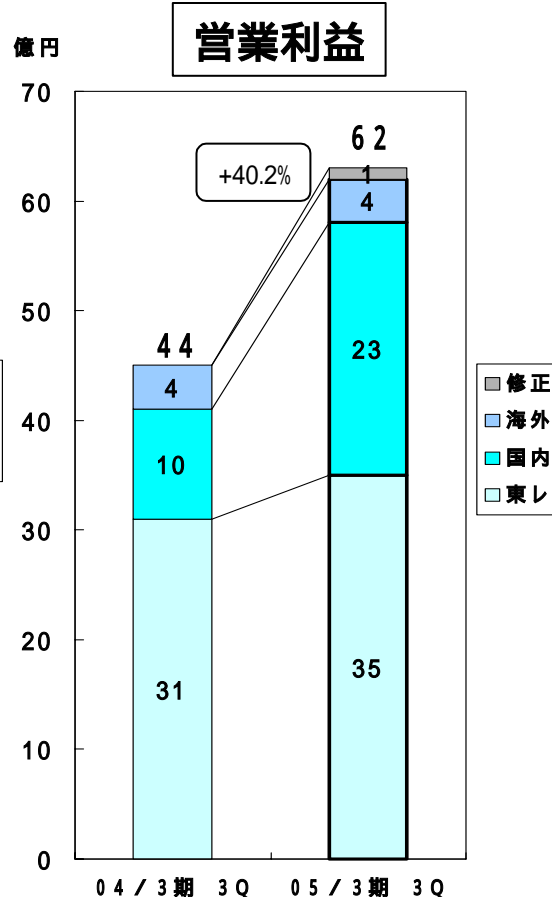
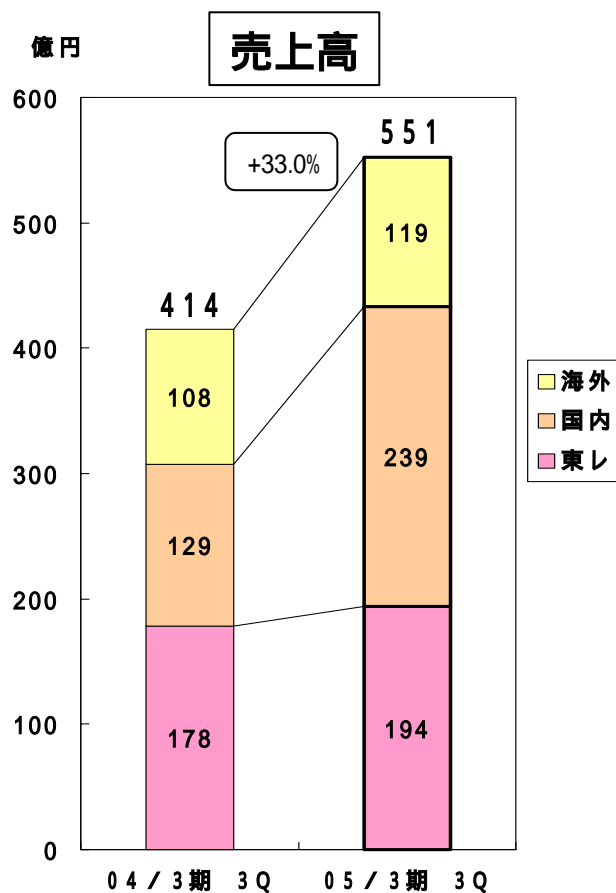
国内： 東レフィルム加工、東レ・ファインケミカル、曾田香料、蝶理 他

海外： TPA(アメリカ)、TPM(マレーシア)、TPEu(フランス)、TSI(韓国) 他

(注) 東レ・ファインケミカルのIT関連ケミカルを当期第1四半期よりプラスチック・ケミカルセグメントから情報・通信機材セグメントに組み替えている。

そのため04年3月期第3四半期についても同組み替え分を修正している。

事業セグメント別業績(情報・通信機材)



特記事項

東レ

IT関連の樹脂・フィルム、回路材料、液晶カラーフィルターなどがデジタル関連製品需要の拡大を背景に増収増益。

国内子会社

IT関連機器子会社による、液晶カラーフィルター塗布装置（スリットコーター）の拡販に加え、蝶理の連結子会社化の影響等により、大幅な増収増益。

海外子会社

IT関連の樹脂・フィルム子会社が、デジタル関連製品需要の拡大を背景に増収増益。韓国の回路材料関連子会社は、液晶パネルメーカーの生産調整により減益。

< 主要関係会社 >

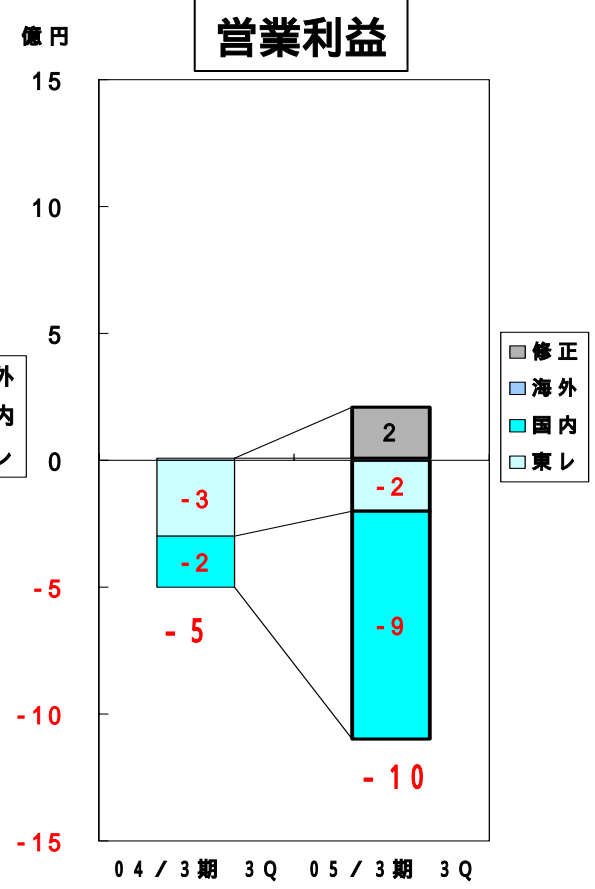
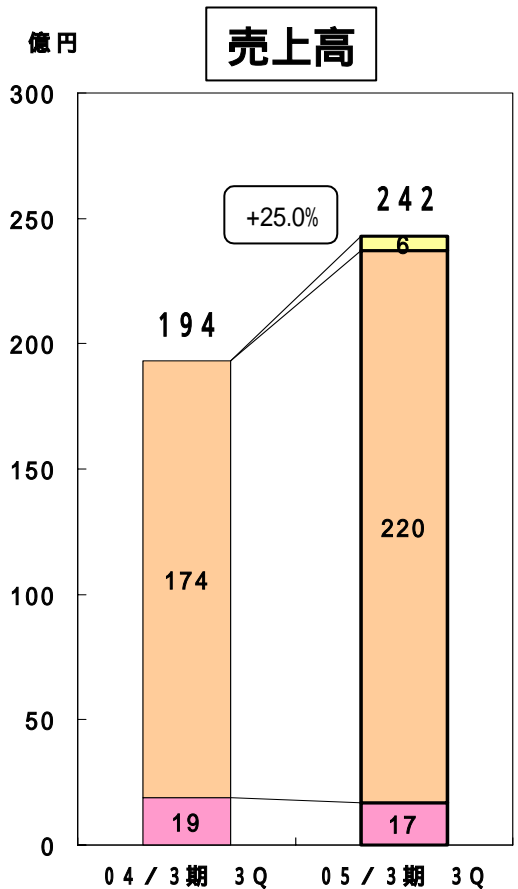
国内：東レエンジニアリング、東レフィルム加工 他

海外：TPA(アメリカ)、TPEu(フランス)、TSI(韓国) 他

(注) 東レ・ファインケミカルのIT関連ケミカルを当期第1四半期よりプラスチック・ケミカルセグメントから情報・通信機材セグメントに組み替えている。

そのため04年3月期第3四半期についても同組み替え分を修正している。

事業セグメント別業績(住宅・エンジニアリング) **TORAY**



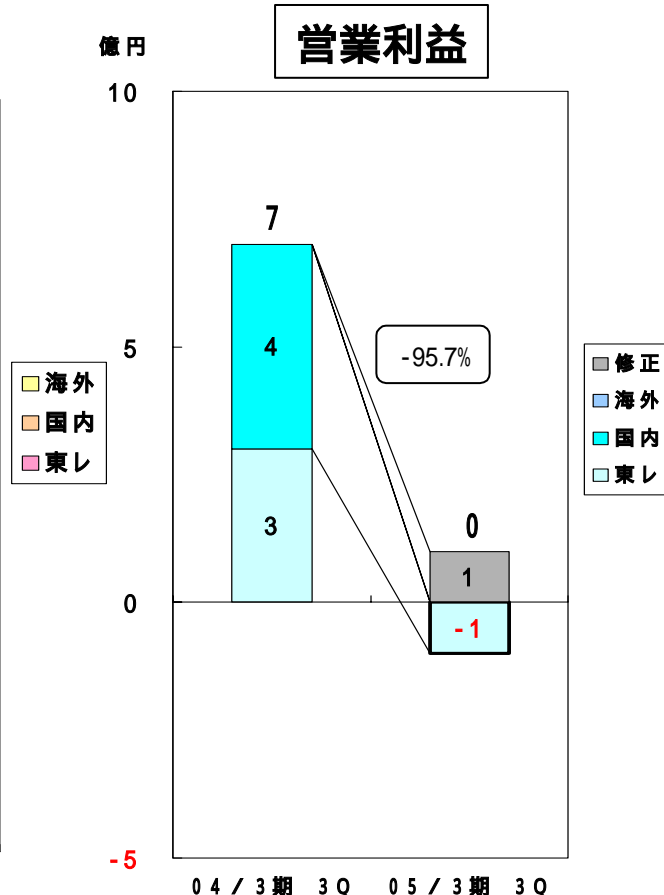
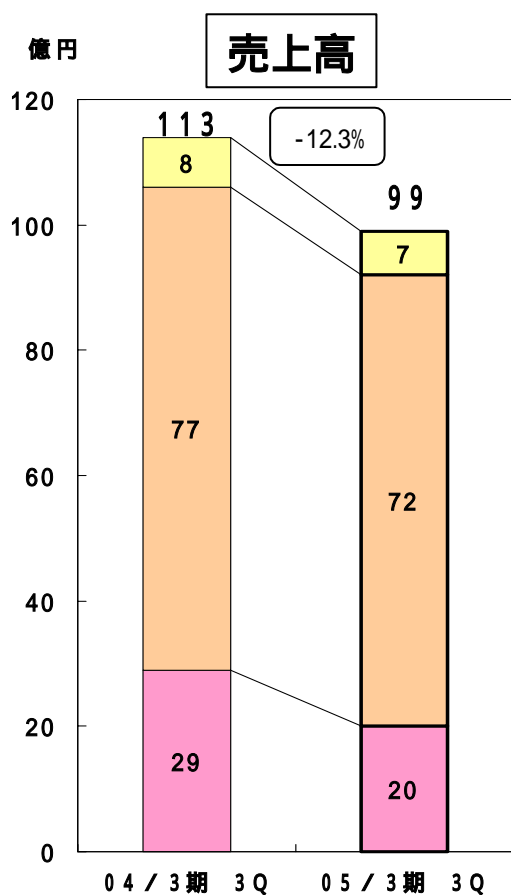
特記事項

国内子会社

蝶理・水道機工の連結子会社化により増収となるも、建設子会社及び水道機工の売上計上が第4四半期に集中するため減益。

< 主要子会社 >
 国内: 東レ建設、東レエンジニアリング、東レACE、水道機工 他

事業セグメント別業績 (医薬・医療)



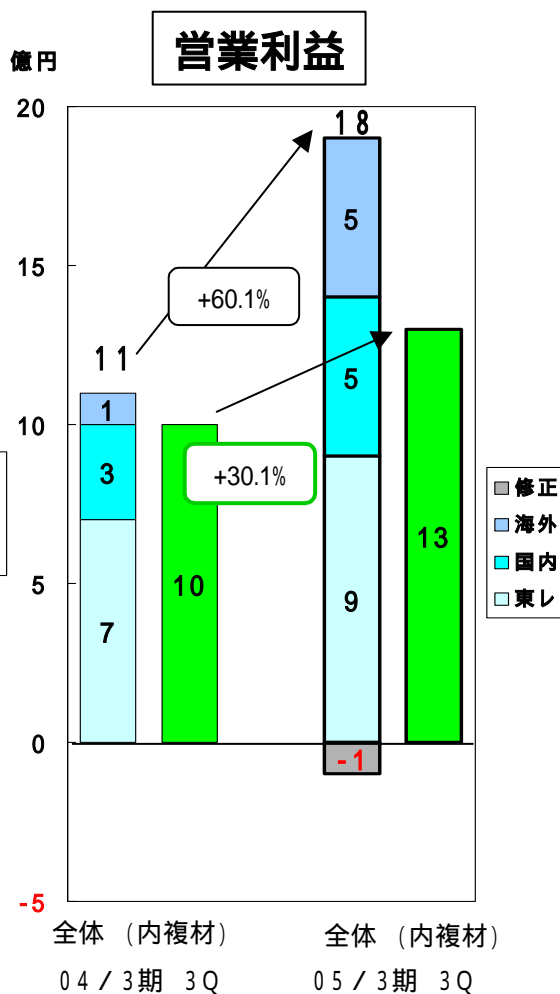
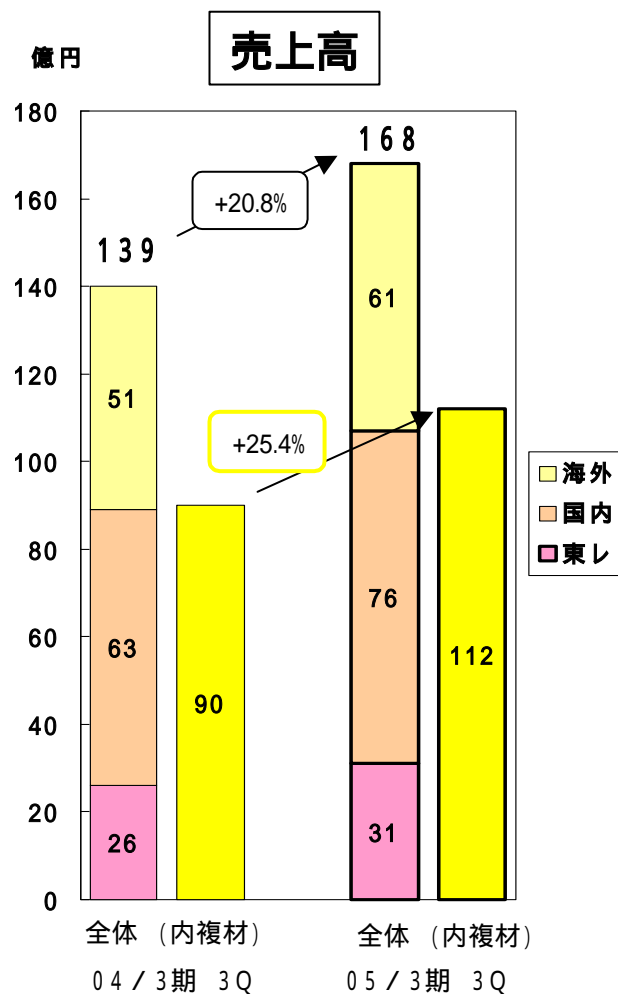
特記事項

東レ
 医薬品の薬価改定及び競争激化の影響等により減収減益。

国内子会社
 医療材を拡販するも、償還価格改定の影響により減収減益。

< 主要子会社 >
 国内： 東レ・メディカ

事業セグメント別業績(新事業その他)



特記事項

東レ

主力の炭素繊維複合材料（複材*）事業が好調に推移し、増収増益。

国内子会社

商事子会社、サービス子会社の拡販を主因に増収増益。

海外子会社

複材事業における、航空機用途の需要が拡大期に入ると共に、産業用途が順調に拡大し、増収増益。

< 主要関係会社 >

国内：東レリサーチセンター、東レインタープライズ 他
 海外：SOFICAR(フランス) 他

* 複材：炭素繊維複合材料

連結営業利益増加要因分析

億円

2004年3月期	2005年3月期	1Q	2Q	3Q	1Q～3Q累計
先端材料・NVC [*] の拡大、生産・営業効率改善、販売量・生産量増など		+54	+62	+31	+147
TCプロジェクト効果(製造固定費・外注加工費・購買物流費・本社費・営業費の削減、要員効率化など)		+15	+22	+35	+72
販売価格アップ・原料価格アップの影響など(ネット)		-2	-42	-34	-78
合 計		+67	+42	+32	+140

2003年3月期	2004年3月期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
先端材料・NVC [*] の拡大、生産・営業効率改善、販売量・生産量増など		+58	+53	+55	+15	+181
TCプロジェクト効果(製造固定費・外注加工費・購買物流費・本社費・営業費の削減、要員効率化など)		+35	+30	+28	+30	+123
販売価格アップ・原料価格アップの影響など(ネット)		-41	-14	-19	+8	-66
合 計		+52	+69	+64	+52	+237

*NVC:New Value Creator

2005年3月期連結業績見通しの概要

億円

	前年度実績	今回見通し	増減
売上高	10,885	13,100	+2,215 (+20.3%)
営業利益	568	800	+232 (+40.9%)
経常利益	516	760	+244 (+47.3%)
当期純利益	209	330	+121 (+57.8%)

中間決算 時見通し	増減
13,200	-100 (-0.8%)
800	- (-)
760	- (-)
390	-60 (-15.4%)

想定為替レート(2005年1月～2005年3月)：103円 / US\$、1.3US\$ / ユーロ
 想定原油価格：38US\$ / B (ドバイFOB)

事業セグメント別業績見通し (売上高 / 営業利益)

(1) 前年度実績との差異

億円

2005年3月期通期

	売上高			営業利益			特記事項
	前年度実績	今回見通し	増減	前年度実績	今回見通し	増減	
繊維	4,248	5,250	+1,002 (+23.6%)	184	210	+26 (+14.3%)	価格転嫁、高採算品へのシフト、体質強化等、並びに蝶理の連結子会社化の影響もあり、増収増益。
プラスチック・ケミカル	2,548	3,000	+452 (+17.7%)	92	150	+58 (+63.3%)	樹脂は自動車・電機用途へ、フィルムは工業材料用途への拡販を進め、増収増益。
情報・通信機材	1,778	2,150	+372 (+20.9%)	178	285	+107 (+59.9%)	IT関連樹脂・フィルム、電子材料、IT関連機器子会社の好調等により増収増益。
住宅・エンジニアリング	1,201	1,500	+299 (+24.9%)	17	40	+23 (+136.0%)	建設・エンジニアリング子会社の拡販と体質強化等、並びに水道機工の連結子会社化の影響もあり、増収増益。
医薬・医療	479	450	-29 (-6.0%)	35	25	-10 (-28.8%)	医薬品の薬価改定及び競争激化等により減収減益。
新事業その他	631	750	+119 (+18.8%)	59	90	+31 (+53.4%)	炭素繊維複合材料事業は、堅調な需要を背景として、高採算品種へのシフトにより、増収増益。
(内、炭素繊維複合材料)	373	470	+97 (+26.0%)	36	60	+24 (+68.0%)	
	10,885	13,100	+2,215 (+20.3%)	564	800	+236 (+41.7%)	
消去又は全社				3		-3	
連結	10,885	13,100	+2,215 (+20.3%)	568	800	+232 (+40.9%)	

(注) 東レ・ファインケミカルのIT関連ケミカルを当期第1四半期よりプラスチック・ケミカルセグメントから情報・通信機材セグメントに組み替えている。

そのため前年度実績についても同組み替え分を修正している。

事業セグメント別業績見通し (売上高 / 営業利益)

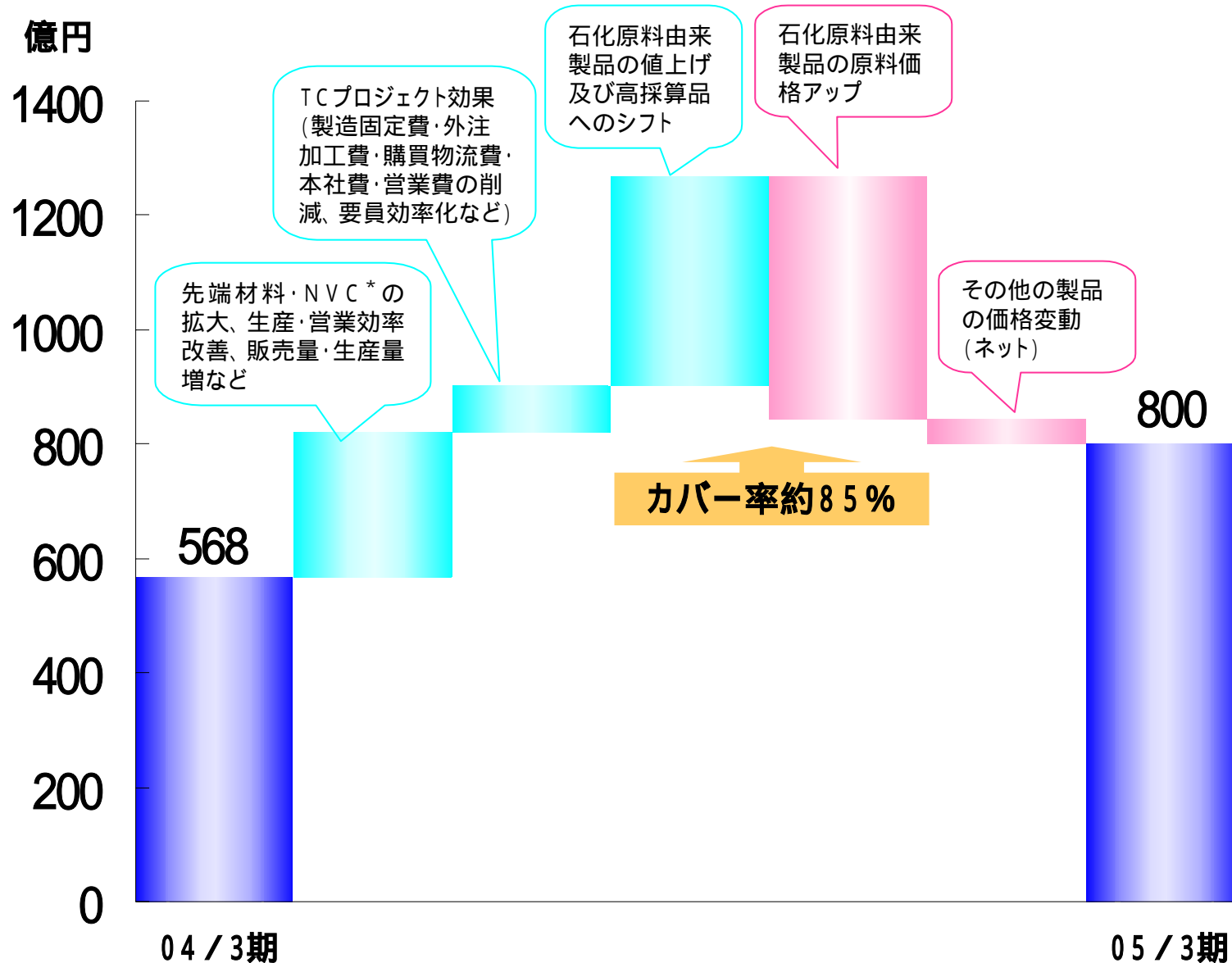
(2) 中間決算発表時 (11/9) 見通しとの差異

2005年3月期通期

	売上高			営業利益			特記事項
	11/9時 見通し	今回 見通し	増減	11/9時 見通し	今回 見通し	増減	
繊維	5,300	5,250	-50 (-0.9%)	215	210	-5 (-2.3%)	不採算品種の削減等により売上高を下方修正。 原料価格高騰の影響等により営業利益を下方修正。
プラスチック・ケミカル	3,000	3,000	- (-)	140	150	+10 (+7.1%)	堅調な需要を背景として、価格転嫁や高採算品種へのシフトにより、営業利益を上方修正。
情報・通信機材	2,200	2,150	-50 (-2.3%)	290	285	-5 (-1.7%)	デジタル関連製品の一時的な在庫調整の影響により売上高、営業利益とも下方修正。
住宅・エンジニアリング	1,500	1,500	- (-)	40	40	- (-)	
医薬・医療	450	450	- (-)	30	25	-5 (-16.7%)	開発費の増加などにより営業利益を下方修正。
新事業その他	750	750	- (-)	85	90	+5 (+5.9%)	炭素繊維複合材料事業は、堅調な需要を背景として、高採算品種へのシフトにより、営業利益を上方修正。
(内、炭素繊維複合材料)	470	470	- (-)	56	60	+4 (+7.1%)	
計	13,200	13,100	-100 (-0.8%)	800	800	- (-)	
消去又は全社							
連結	13,200	13,100	-100 (-0.8%)	800	800	- (-)	

億円

連結営業利益見通しの増加要因分析



04 / 3期

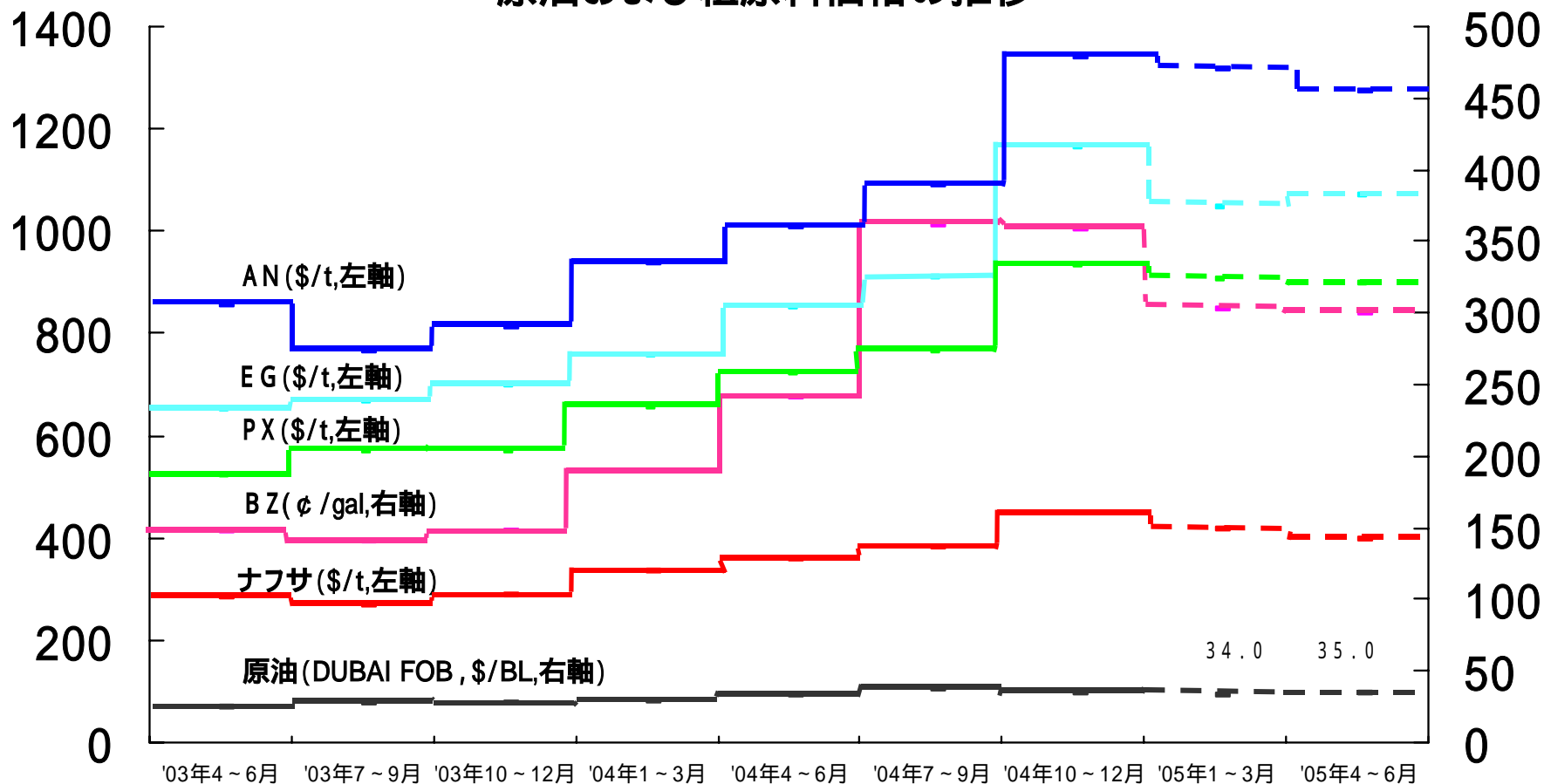
05 / 3期

* NVC : New Value Creator

(見通し)

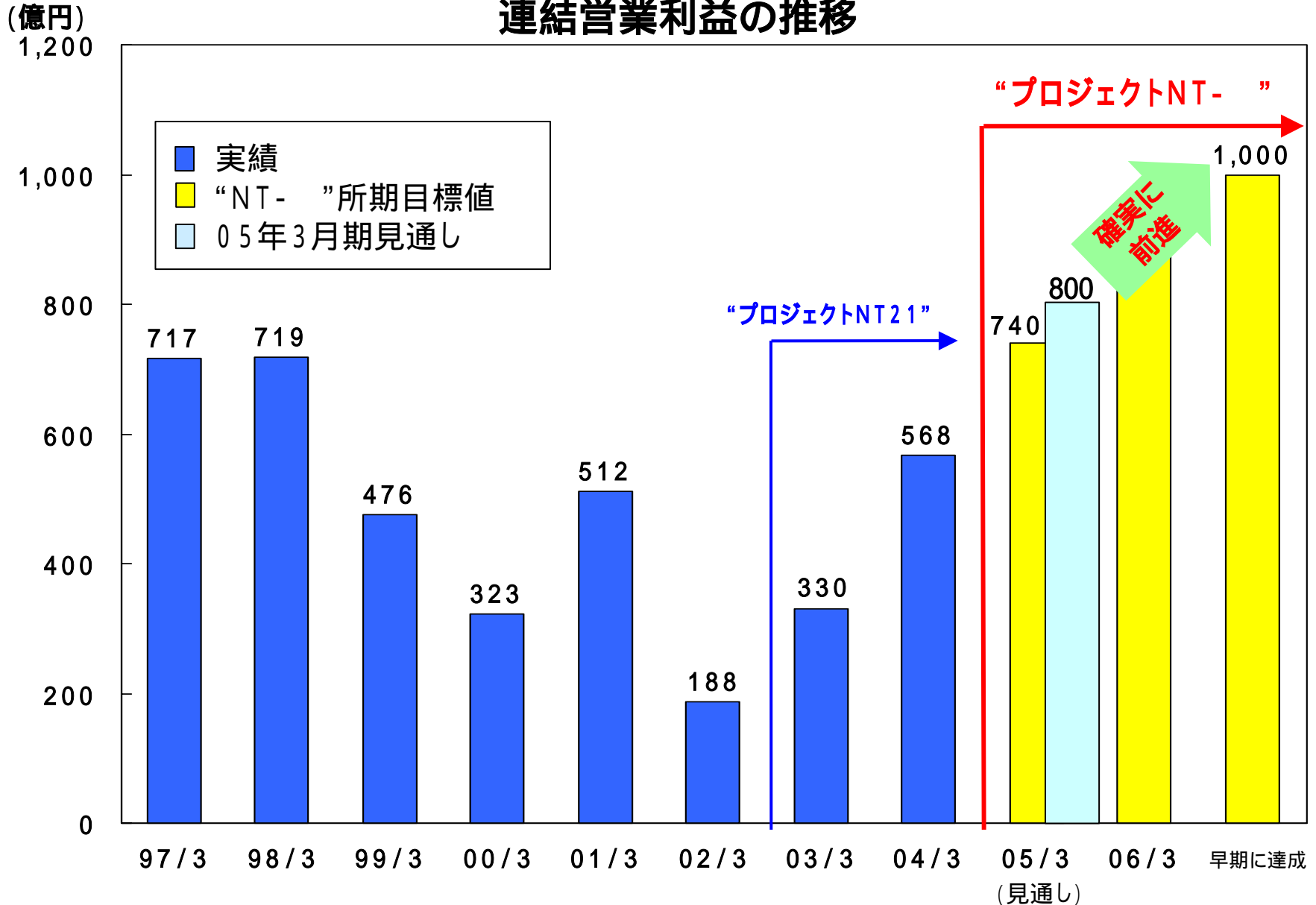
原油ならびに主要な原料価格は、05年1～3月以降は若干の軟化を予想するが、今後も強含みで推移すると見込む。

原油および粗原料価格の推移



“プロジェクト NT- ” 達成に向けて

連結営業利益の推移



参考資料

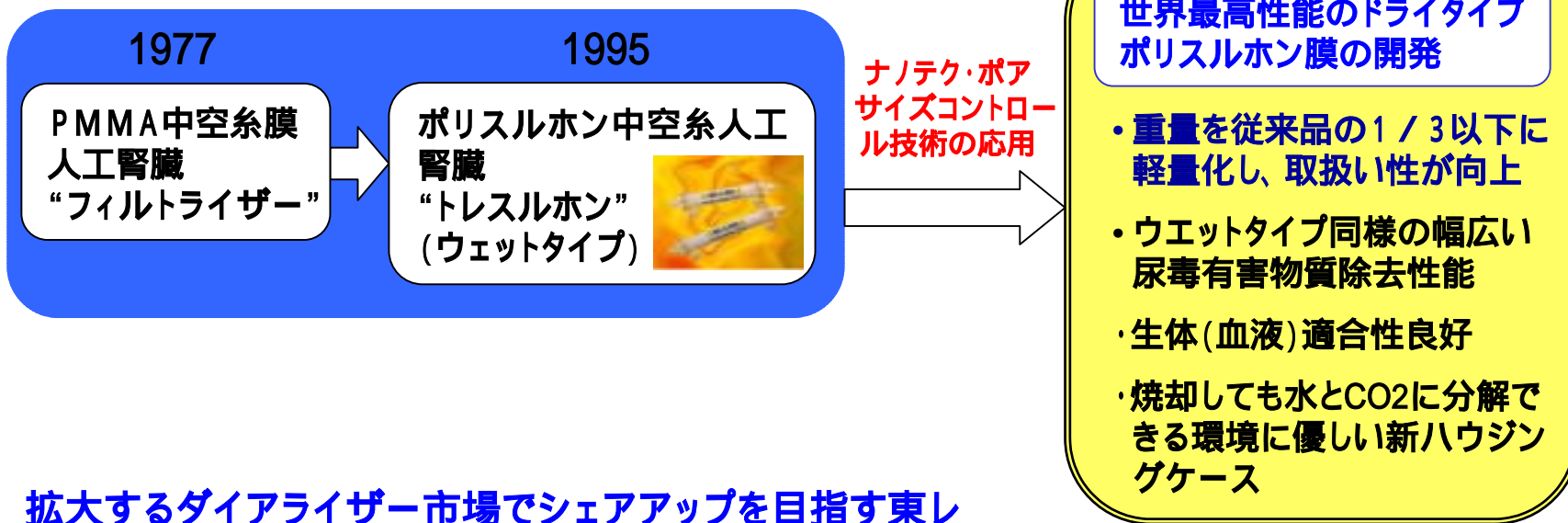
時期	トピックス	NT- の施策			
		先端材料事業 拡大	ナンバー One事業 拡大	海外事業 拡大	事業構 造改革, NVC
11月	<p>新規ポリスルホン膜人工腎臓の事業開始</p> <p>ポリスルホン膜中空糸型血液透析器(ダイアライザー)事業において、ナノテクを応用して高性能・小型・軽量化を実現した「ドライタイプ・ポリスルホン膜」ダイアライザーの製品化を計画。(2005年夏頃上市予定)。</p>				
11月	<p>「東レ合繊クラスター」設立総会の開催</p> <p>昨年6月に発足した「東レ合繊クラスター」の構成メンバー67社が集結し、設立総会を開催。クラスターの運営方針や、今後推進する分科会活動の計画について審議・決議を行った。</p>				
12月	<p>世界最高の熱伝導性を有する熱可塑性プラスチックの開発</p> <p>プラスチックと高熱伝導性フィラー間の分子間相互作用を高め、熱の通り道「導通パス」を形成させることにより、従来プラスチックの100倍以上という世界最高の熱伝導率を有する熱可塑性プラスチックの開発に成功。</p>				
1月	<p>ポリ乳酸樹脂“エコディア”の展開</p> <p>東レは、植物系素材プラスチックであるポリ乳酸(PLA)を、地球環境配慮型の先端材料と位置付け、統合ブランドの“エコディア”を冠し、繊維、プラスチック製品の市場展開を推進。ノートパソコンの筐体にも、世界で初めて採用。(富士通(株)FMV-BIBLO向け)</p>				

時期	トピックス	NT- の施策			
		先端材料事業 拡大	ナンバー One事業 拡大	海外事業 拡大	事業構造改革、 NVC
1月	<p>中国におけるコンデンサ用PETフィルムの増設</p> <p>東レと中国の化学コングロマリッドである儀化集团公司とのPETフィルム製造・販売の合併会社「儀化東レポリエステルフィルム有限公司(YTP社)」は、中国におけるコンデンサ用PETフィルムの需要拡大に対応するべく、専用生産設備の増設を決定。</p>				
1月	<p>“トレカ”積層板でノートPCの軽量化・剛性アップを実現</p> <p>東レの炭素繊維“トレカ”積層板を使用し、軽量化と剛性アップを実現した筐体が、ノートパソコンに採用された。炭素繊維複合材料の用途の広がりを受け、航空機用途向けだけでなく、産業用途向けにも今後高い成長率が期待できる。</p>				
2月	<p>タイにおけるエアバッグ用ナイロン系の生産設備増設</p> <p>世界のエアバッグ市場の拡大に対応するため、東レグループとしてエアバッグ用原糸から基布までの一貫したグローバル体制を構築していく。その一環として、タイTTS社において、エアバッグ用ナイロン系の生産設備を年産6,000トン増設することを決定。</p>				
2月	<p>高密度電子回路用2層型基板フィルムの増設</p> <p>回路基板等の需要拡大に対応して、東レフィルム加工(株)福島工場に2層型フレキシブル基板フィルム“メタロイヤル”の生産設備を増設する。(2006年1月稼働開始予定)</p>				
2月	<p>膜による究極的な下廃水処理技術の確立</p> <p>世界トップレベルの膜分離技術およびバイオ技術を駆使し、余剰汚泥がほとんど発生しない究極的なゼロエミッション型膜分離活性汚泥法(メンブレンバイオリアクター:MBR)の基本技術を確立、世界で初めて実証試験(パイロットテスト)段階に進んだ。</p>				

新規ポリスルホン膜人工腎臓の事業開始

ポリスルホン膜中空系型血液透析器(ダイアライザー)事業において、ナノテクを応用して高性能・小型・軽量化を実現した「ドライタイプ・ポリスルホン膜」ダイアライザーの製品化を計画。(2005年夏頃上市予定)

< 東レの合成高分子膜ダイアライザー開発の流れ >



拡大するダイアライザー市場でシェアアップを目指す東レ

現在のダイアライザー市場

日本	3,500万本/年(年率4%で拡大)
海外	7,600万本/年(年率7%で拡大)
合計	11,100万本/年(年率6%で拡大)

2005年夏

1,400万本体制

数年後

3,000万本体制へ

昨年6月に発足した「東レ合繊クラスター」の構成メンバー67社が集結し、設立総会を開催。東レ合繊クラスターの設立趣旨を共有化するとともに、運営方針、今後推進する分科会活動の計画等について審議・決議を行った。

繊維産業の復権に向けての課題と分科会活動

< 課題 >

< 分科会活動 >

流通構造を含む
抜本的構造改革
の推進

- 中小企業自立支援事業等への大型共同案件の申請
- 東レ原系QRシステムへの産地サイドの連携体制の構築

輸出拡大と通商
政策の推進への
対応

- F T A 研究会、東南アジア研究会
- 中国研究会
- ロシア・東欧調査分析

素材開発力・
商品開発力の
強化

- ナノテク素材による新規機能素材の開発
- 炭素繊維を主体とした新規複合材料の開発
- 環境適合型素材による新規商品の開発

高熱伝導熱可塑性プラスチックの開発

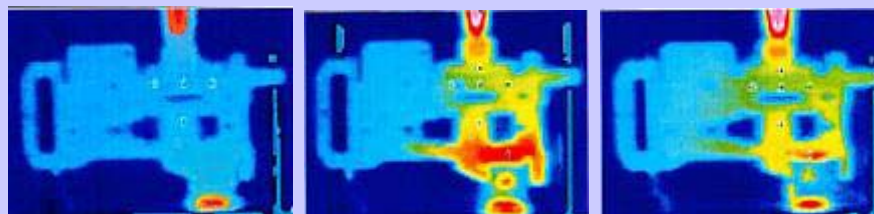
プラスチックと高熱伝導性フィラー間の分子間相互作用を高め、熱の通り道「導通パス」を形成させることにより、従来プラスチックの100倍以上という世界最高の熱伝導率を有する熱可塑性プラスチックの開発に成功。

< メリット (アルミ等金属・セラミック比) >

- ◆ 軽量性
- ◆ 静粛性 (冷却ファン不要)
- ◆ 低コスト
- ◆ 複雑成形品を高効率で成形

< 実成形品での熱伝導性 >

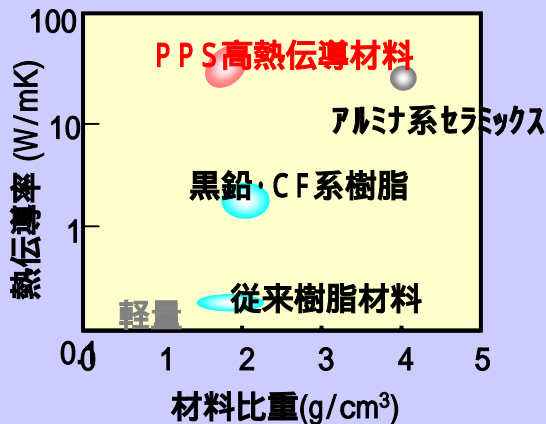
新開発材料は、アルミダイカストと同等の放熱特性 (熱伝導性) を有する



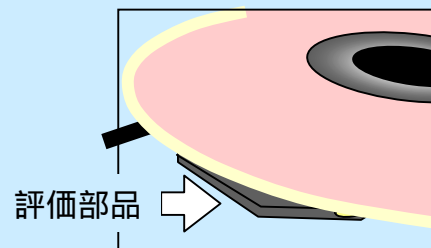
従来材料 PPS高熱伝導材 アルミダイカスト

温度 70 20℃

< 熱伝導率と材料比重の関係 >



光学部品にて評価



家電・OA機器、自動車分野等、高放熱・省エネルギーが求められる分野に本格展開を図る。

“エコディア” (ポリ乳酸) の市場展開

東レは、植物系素材プラスチックであるポリ乳酸(PLA)を、地球環境配慮型の先端材料と位置付け、統合ブランドの“エコディア”を冠し、繊維、プラスチック製品の市場展開を推進。ノートパソコンの大型プラスチック筐体にも、世界で初めて採用(富士通(株)「FMV-BIBLO」向け)。

“ Ecodear[®] エコディア ”
植物から生まれたポリ乳酸繊維・樹脂・フィルム

当社のポリ乳酸関連製品の統合ブランド“Ecodear”を、
繊維・樹脂・フィルムで一体化した市場展開



繊維製品

フィラメント、ステープル・ファイバー、BCF、スパンボンドなど、多様な成型が可能。長年培った「紡糸技術」や「特殊染色手法」「高機能ファブリケーション技術」などの高次加工技術をポリ乳酸繊維に活用し、産業資材、衣料用途、寝装資材、カーペットなどへ展開

フィルム製品

フィルム微細構造技術を駆使した「柔軟性ポリ乳酸フィルム」を、ラップフィルムをはじめとした包装材料や工業材料に展開

樹脂製品

ナノレベルの微分散技術を使った「ポリ乳酸ナノアロイ」を、電機・電子機器や自動車部品など高性能プラスチック分野へ展開

“Ecodear”採用例



トヨタ自動車(株)「ラウム」
向け フロアカーペット



トヨタ自動車(株)「ラウム」
向け スペアタイヤカバー



家庭用ラグ



富士通(株)「FMV-BIBLO」
向けノートパソコン用筐体

中国におけるコンデンサ用PETフィルムの増設 **TORAY**

東レと中国の化学コングロマリッドである儀化集团公司とのPETフィルム製造・販売の合併会社「儀化東レポリエステルフィルム有限公司(YTP社)」は、中国におけるコンデンサ用PETフィルムの需要拡大に対応するべく、専用生産設備の増設を決定。

世界のPETフィルム需要: 110～120万トン

中国のPETフィルム需要: 約20万トン(成長率 年率10%以上)

< 中国におけるコンデンサ用PETフィルム市場 >

- ・家電・電子部品メーカーの中国進出に伴う海外コンデンサメーカーの追従と、現地コンデンサメーカーの拡大により、需要が急拡大。
- ・極薄コンデンサ用PETフィルムは中国国内で供給メーカーが少なく、海外からの輸入に頼っている。

< YTPの生産能力推移 >

2005年
21,000トン/年

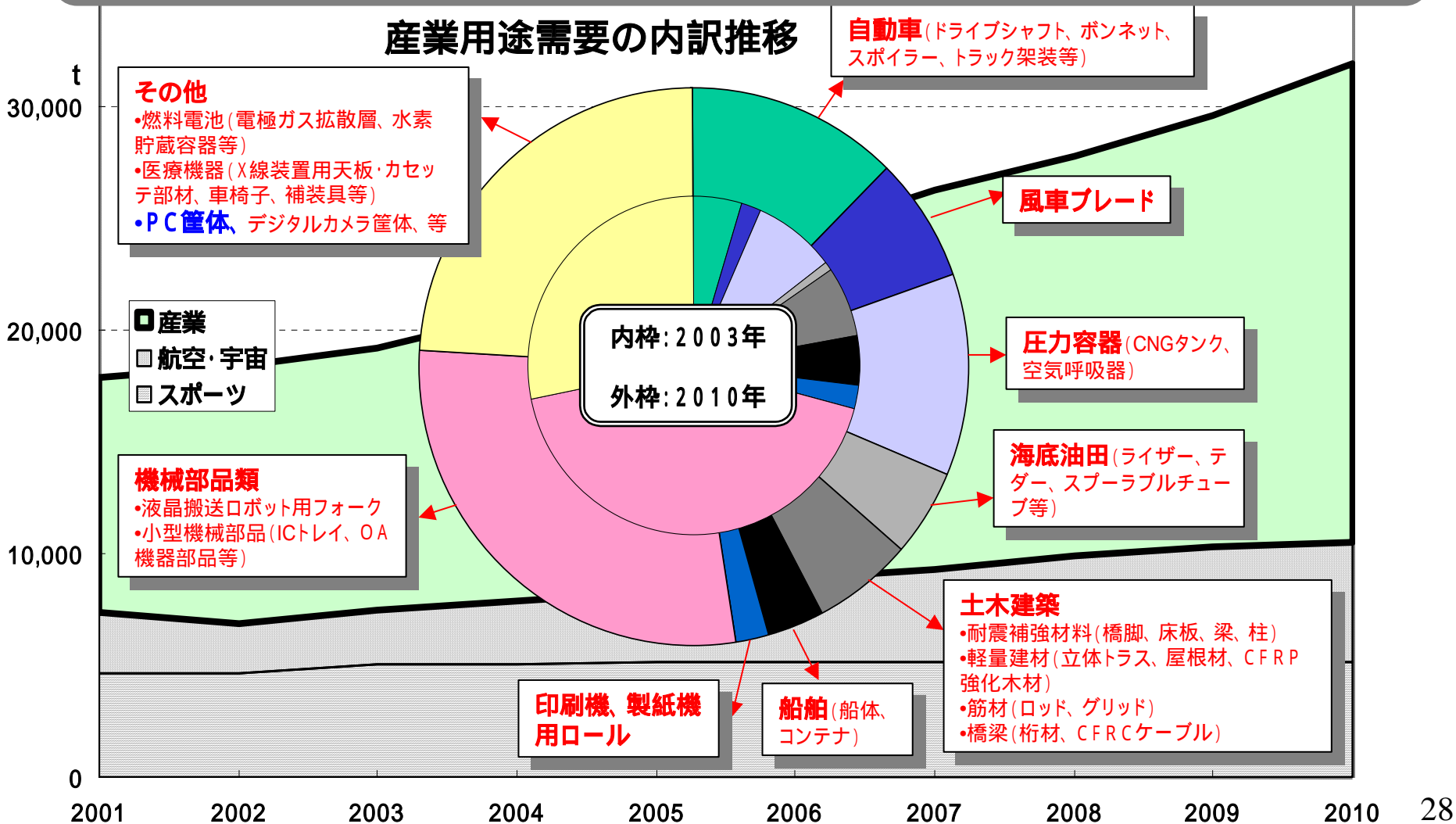
極薄コンデンサ用PET 1系列増設
(主要機器は滋賀事業場からの移設)
投資額:約20億円

2006年初
22,500トン/年

今後、更なる拡大へ

“トレカ”積層板でノートPCの軽量化・剛性アップを実現

東レの炭素繊維“トレカ”積層板を使用し、軽量化と剛性アップを実現した筐体が、ノートパソコンに採用された。炭素繊維複合材料の用途の広がりを受け、航空機用途向けだけでなく、産業用途向けにも今後高い成長率(年率9~10%)が期待できる。

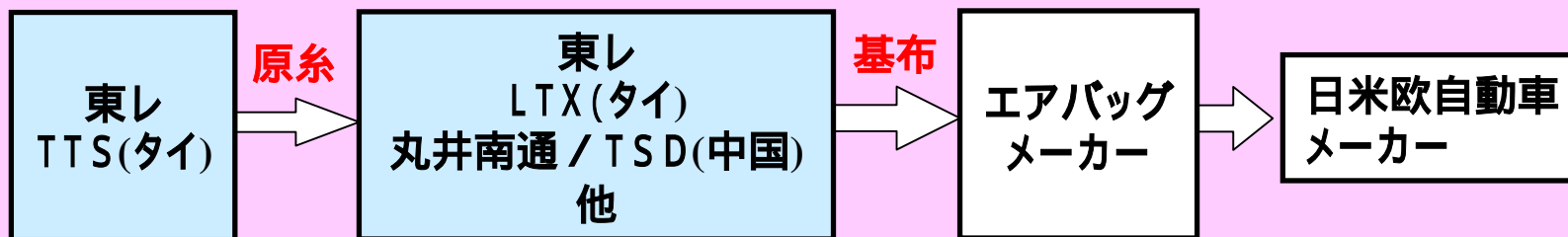


タイにおけるエアバッグ用ナイロン系の生産設備増設

世界のエアバッグ市場の拡大に対応するため、東レグループとしてエアバッグ用原系から基布までの一貫したグローバル体制を構築していく。その一環として、タイTTS社において、エアバッグ用ナイロン系の生産設備を年産6,000トン増設することを決定。

世界のエアバッグ用ナイロン系市場: 68,000トン/年(2003)
(成長率:年率8%)

<東レグループの原系・基布一貫の供給体制>



<東レグループにおけるエアバッグ用ナイロン系の生産能力>

	2005年	2006年春
東レ(岡崎)	8,000トン/年	8,000トン/年
TTS社(タイ)	6,000トン/年	12,000トン/年
合計	14,000トン/年	20,000トン/年



カーテン、サイド・エアバッグ

回路基板等の需要拡大に対応して、東レフィルム加工(株)福島工場に2層型フレキシブル基板フィルム“メタロイヤル”の生産設備を増設する。(2006年1月稼働開始予定)

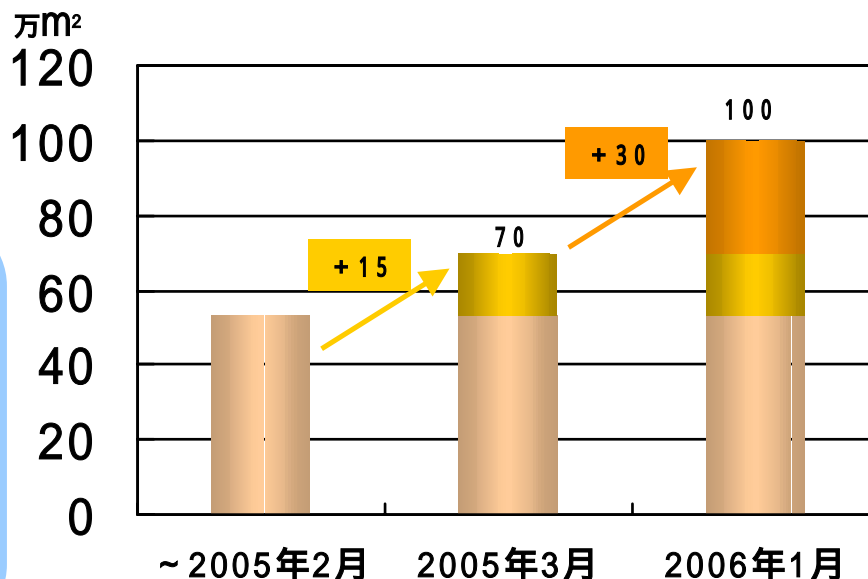
- ・大型液晶パネルの薄型化
- ・駆動装置の小型化

フラットパネル用回路基板フィルムの3層型(フィルム + 接着剤 + 銅箔)から2層型(フィルム + 銅メッキ層)への転換が進む



“メタロイヤル”

“メタロイヤル”の生産能力(COF標準品種換算)



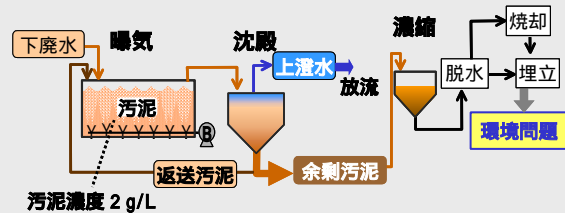
今後3~4年間に更に設備増強を行い、売上高100億円への拡大を目指す。

膜による究極的な下廃水処理技術の確立

世界トップレベルの膜分離技術およびバイオ技術を駆使し、余剰汚泥がほとんど発生しない究極的なゼロエミッション型膜分離活性汚泥法(メンブレンバイリアクター: MBR)の基本技術を確立、世界で初めて実証試験(パイロットテスト)段階に進んだ。

< 現行の廃水処理技術 >

活性汚泥法 (ASM)



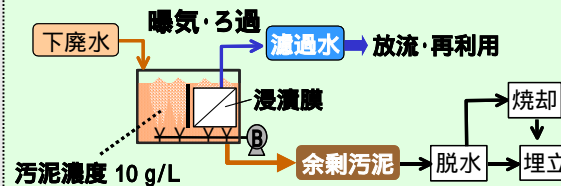
長所:

- ・豊富な実績

短所:

- ・処理スペース 大
- ・水質に限界
- ・余剰汚泥多
- ・不安定

従来型 メンブレンバイリアクター



長所:

- ・処理水質良
- ・再利用に適
- ・処理コスト低減

短所:

- ・余剰汚泥がなお発生

< 開発中の廃水処理技術 >

究極のゼロエミッション型 メンブレンバイリアクター

- ・微生物制御技術*1
- ・低ファウリング膜技術
- ・省エネ高効率曝気技術

余剰汚泥ほぼゼロ*2

活性汚泥法の約1/7
従来型MBRの約1/4

処理コスト削減例*2

活性汚泥法の約3/4
従来型MBRの約4/5



実証用小型
プラント

*1: 微生物技術: 汚泥のろ過性・粘性を一定レベルに維持する技術

*2: 産業排水 BOD1000ppmの場合

本資料中の2005年3月期業績見通し、及び中期経営課題における見通し、事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。